

自閉症スペクトラム児の語りの発達と支援



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 講師

重森 知奈 Shigemori China

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 自閉症スペクトラム障害・ナラティブ・言語発達



研究の概要

SDGs 目標 3:すべての人に健康と福祉を

ナラティブとは、出来事を結び付け、筋道をつけて他者に語ることであり、語り手が経験した出来事を人に語る場合、事実を伝えるだけでなく、感じたことや考えを加えて述べる。そこには、おのずと語り手のこれまでの経験と認識を通じた意味づけが反映される。他者への語りには、経験した出来事のほか、目撃したことがらや想像や空想した内容等があり、さまざまである。ナラティブの発達には、幼児期後期には語彙、文法などの表現形式をもとに、基本的な語りの形を形成していく。そして、児童期には、他者に向けて、より分かりやすく、必要な情報を正確に伝えたり、起承転結やオチをつけて話したりなど、語り全体を組織化させ、語り方の面もあわせ精緻化させていく。また、幼児期のナラティブは児童期の学業成績や読み書きと関連することが指摘され、語る力はその後の知識の習得にも影響するといわれている。

自閉症スペクトラム障害 (Autism Spectrum disorder : 以下 ASD) のある子どもは、言語コミュニケーションにおける対人交流場面の行動特徴を背景として、ナラティブにも困難を示す。知的発達や言語発達に遅れはない場合であっても、人に分かりやすく伝える工夫など、語る場面においては語用論的な課題を示すとされる。児童期における学びや友人関係を育むためにも、語りの発達とその支援は重要であるといえる。

本研究では、ASD 児のナラティブにおける言語の分析を通して、語られた単語や文などの表現形式と、ストーリー構成の面について、発達の特徴を明らかにする。得られた知見は、ASD 児の言語発達に関して、語る力の発達の道筋を示すとともに、ASD 児への言語発達の支援における示唆を得られると考えている。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

ASD 児・者はコミュニケーションに困難を示す。具体的な場面として、説明がわかりにくい、要点を得ない、どうしてこうなったのか等を適切に説明することが難しいなどが挙げられる。こうした困難さは、大人の ASD でも仕事や私生活などでも、コミュニケーションの行き違いによるトラブルの原因になることもある。子どもにおける語りの特徴に関する知見を積み重ねることで、発達的な支援の手立てにつなげたいと考えている。そして、より円滑で心地よいコミュニケーションをとれる環境を整えていきたいと考えている。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「自閉症スペクトラム児のフィクショナルナラティブにおける発話特徴」
- ・「自閉症スペクトラム障害児におけるナラティブ発話の内容分析」

【科研費】

- ・研究活動スタート支援「自閉症スペクトラム障害におけるフィクショナルナラティブの発達に関する研究」